

佐次兵衛申送候事。但、御紋等被下は御召料とは違候事。  
一、久保壽齋大切に相煩候に付、御上より爲看病被爲召、久保壽安御國より罷越候所、道中七日に而江戸参府仕に付、道中御定之日數御扶持方、并到着之日より外、駕籠昇之二人扶持相渡候事。

一、加州高松村宇兵衛、大阪町人宇材木之儀に付出入に而、同村組合頭・肝煎等召連、十村御所村長次郎・南中條村吉兵衛寛延元年戊辰六月二日江戸着。右十村兩人は、御屋敷之内御歩町に御小屋受取相渡す。御詮議之上會所より、在留中支配之儀前田勘解由殿被仰渡候事。

一、八十五郎殿道中御供爲御用、金澤町醫有澤了長・櫻井了允江戸に罷越候に付、支配之儀段々御倉藏有之上、會所奉行支配可有之事に相極り、御小屋等受取相渡候事。

一三 御能方之儀覺

一、表に而御客有之、御囃子等被仰付御雇役者寶生大夫等罷越、御盃事等有之時分、御客附并御嶋臺等出、御初・御結等之儀等御作法番は、御客方組頭等より借出し、右番記

寶生大夫等爲見、御看諷相動候心得に仕候事。  
一、右御座敷に役者懸申時分、御間之内いづれの方より相懸り可申儀、御横目并組頭之内に可申談事。

一、御能に而茂御囃子に而茂、相濟候後御吸物・御酒等被下儀、前座に御臺所申談置、鹽合之ぬけ不申様。但、其日之様子次第に麴類等被下候事。

一、一統御菓子等被下候砌、若御手役者に不被下時分、其段相願被下候様に仕候事。

一、御表之御能・御囃子相濟候而、役者相返候儀どれは見合候様に申渡有之、追而御奥杯に而重而御番附相極、御囃子等有之時分、拙者共并古物裁許等詰所又改り候。尤役者中何れ之所に指置申儀等、組頭申談罷在處、右之品は御坊主小頭申談候。重而奥向に而居所受取候事。

一、右御囃子相濟候以後、御役者爲引可申哉与御近習頭に相尋、指南を受申渡候事。

一、御留守中は御臺所奉行之通、御料理出申節、御客之御次に而御膳しらへ有之時分、夫々御客之御膳もり方等心付、ふたなど取見分仕候事。

一、右御番附、役者共に先御用人承合候。御用所取紛に候へ者、御右筆所頼置、調に出候時分寫來る。其御番附、役者中に相違候事。

一、御手役者等、煩指合之儀斷候得者、御用所相違候事。  
一、寛保元年五月十五日伊勢守様等被爲入候砌、御役者共罷出候内、尾上萬次郎儀妻女産仕、十九日迄血忌罷在、右之段相斷申に付、明十五日爲御用罷出候儀いかゞ可有御座哉之旨、西尾隼人殿に相違候所、無構可指出旨隼人殿御申渡候旨、稻垣三郎右衛門申聞候事。

一、御手役者被下物等有之砌は、於御殿長圍爐裏之御間に而御用人挨拶、御目錄被下候。右之砌罷出、夫々致指圖候事。  
一、右集め所御殿廊下通り、御能・御囃子有之候節罷出候所迄集、何茂相揃候段御用人中に相違候事。

一、諸橋何次郎罷歸候砌、寶生大夫に進物を被下物、前座大概内藏允に、何次郎方よりはに而内證申入候而、其上會所表立願申談候事。

白銀五枚

染物三反

蹴筋一籠

右波吉宮門、翁傳授之節被下候而、寶生大夫に遣候品。

白銀三枚

中絹二疋

寶生大夫に

右は波吉宮門、翁致傳授候に付從公儀被下物。

染物十反

蹴筋一籠

翁諸橋何次郎、亂波吉宮門、右傳授、且又罷歸候時分之被下物与一所に被下候由。

白銀十五枚

彌三郎等弟子中に配當物被下、何次郎・宮門兩人に。

一、八講布五疋・着一種

寶生大夫に

一、小判十兩

寶生大夫・孫三郎等弟子

右諸橋何次郎亂傳授仕且又近々御國に罷歸候に付寶生大夫等に送り物右之通被下候様何次郎より私共迄相願申候。以上。

五月十九日

河村覺左衛門

津田林左衛門

寺西清左衛門